

凡 例

1. この統計書は、県庁内各部課の資料及び関係官公署、団体等から集めた資料によって、編集したものである。
2. 本書は、原則として昭和62年（暦年・年度）の事実により集録し、これにより難しいものは、最近年次の調査事実をとり入れた。
3. 数字の単位未満は、原則として四捨五入した。したがって、統計と内訳の数の計が一致しない場合もある。
4. 統計評の説明は頭注に、資料の出所は脚注にかかげた。
5. 特に注記しない限り年は暦年、年度は会計年度を示す。
6. 本表にかかげた数字のうち、これまでに発表した数字と異なるものがあるときは、その後修正したためである。
7. 統計表の市、郡、町、村は、原則として調査時の区域によった。
8. 統計表中の符号の用法は、次のとおりである。

0	………	単 位 未 満（四捨五入後）
—	………	該当数字なし
…	………	不詳・資料なし
△	………	マイナス
λ	………	統計法第14条による秘匿扱い